

令和5年度第1回総合教育会議議事録

1. 日 時 令和6年2月28日(水) 午前9時00分～午前11時40分
2. 会 場 高鍋町教育委員会 大会議室
3. 出席者 黒木 敏之 町長、島埜内 遵 教育長、黒木 知文 教育長職務代理者、小泉 桂一 委員、四角目 久美子 委員、岩崎 晃子 委員
4. 参 与 横山 英二 教育総務課長、原田 誠 教育対策監、三枝 敏郎 教育総務課長補佐、秋山 俊介 指導主事、岩佐 康司 社会教育課長、飯干 雄司 財政経営課長、吉田 聖彦 建設管理課長

5. 議 事

(開会 午前9時00分)

教育総務課長 只今から、令和5年度第1回高鍋町総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、町長あいさつとなっております。黒木町長よろしくお願いいいたします。

黒木町長 皆様おはようございます。本日は大変お忙しい中、総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から、本町の教育行政の推進に深い御理解と多大なる御支援を賜っておりますことに対しまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回の会議では、今後の学校施設整備、不登校児童生徒の支援、それから学力向上の3つをテーマにして、意見交換を行いたいと考えております。いずれのテーマも、報道や議会でもよくとり上げられるものばかりでありまして、住民の皆様の関心の高い、重要なテーマであると認識しているところでございます。

限られた時間ではありますが、皆様のご意見を十分に拝聴してまいりたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいいたします。

教育総務課長 ありがとうございます。それでは、資料に沿って進めさせていただきますが、協議事項の進行につきましては、会議の主宰者であります町長が行うこととなっておりますので、町長、よろしくお願いいいたします。

黒木町長 それでは早速、私の方で、議事の進行をさせていただきます。

協議事項の1番目、「今後の学校施設整備の方向性について」を議題とさせていただきます。事務局からの説明をお願いいたします。

教育総務課長補佐 <資料に基づき説明>

黒木町長 ありがとうございます。ただ今の説明をもとに、意見交換をさせていただきたいと思いますが、何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

黒木委員 今回説明いただきました長期に渡る小学校の整備計画をどのように町民に説明し、理解してもらおう予定なのでしょうか？

教育総務課長補佐 はい。学校施設の改修にあたっては、仮設校舎を建設して、そちらに移動するというのが、想定されますので、そのあたりについての保護者説明というのがまず、必要となってくるのではないかと考えております。

あとの工事の実施については全体的な話になりますので、町の広報誌などで知らせていくような形になるのかなと考えておりますが、現時点ではまだはっきり決まっていないことが多いので、今後もう少し内容が見えてきてから住民の皆さんにも説明していく必要があると考えております。

黒木町長 かなり長期間にわたる事業なので、現時点で、全体計画を説明することは難しい

- 黒木町長 ということですね。
- 黒木委員 どういう計画なのかということについて事前に知らせておく必要があるのではないかなと感じたところでした。
- 黒木町長 なるほど、確かに、もう少し、わかりやすくして、どこを目指してるのかということも事前に町民の皆さんにお示しした方がよいということですね。
- 教育総務課長補佐 もしかしたら、予算が多く配分されて、少し事業期間が短くなることもあり得ると思いますので、目標とするところを伝えながら、進めていければと考えております。
- 黒木町長 目標はこうです。目標を達成するために、短中期的にはこんなことを積み重ねていきますというようなことを周知しておくということですね。あらかじめ住民の皆様方に、ここを目指してるんですということをお示ししておく、安心されるのではないのでしょうか。
- 四角目委員 少子化でだんだん子供たちが少なくなっている中で、20年後も、このコンパクトな高鍋町に小学校が2つ必要なのかなという点が心配ですね。多大なお金を使って2つの学校を改修していくということが、果たして必要なのだろうかと思います。もうちょっと長期的に、何年には子供たちの数はこれくらいになっているというような試算をしっかりとやっておく必要があるのではないかなと思います。
- 教育総務課長 先ほどの表でもお示ししましたとおり、子供の数は、若干減ってはいくんですけども、今、国の方では35人学級化が進められておりますので、一定の学級数は維持する必要がございます。文科省の定める学校の統配合基準があるのですが、本町の場合、そちらの基準にはまだ該当しておりません。そのようなことで、現状のまま校舎に手を加えず放置しておくわけにはいけませんので、やっぱり改良は必要になってくるのかなというふうに考えているところでございます。
- 黒木町長 小学校は2つあった方がいいとは思いますが、中学校は1つでいいのかなというような時が来る可能性があるのではないかと思います、どうでしょうか。
- 教育総務課長 先ほど補佐の方からも説明させていただきましたとおり、中学校は1つに統合することも視野に入れた計画を今現在、策定中であります。
- 黒木町長 本町の人口予想は、2060年には、1万6,000人ぐらいの予想にはなってますよね。それは、どうしようもない状況でして…。
- 島埜内教育長 先ほど課長が申しましたとおり、元々40人学級だったんですけども、それが35人学級、30人学級という形にシフトしてきておりますので、学級数自体は、あまり変わらないのではないかと考えております。小学校を先に改修していきますので、中学校は統合した方がよいというような話が出てきた時には、また途中で計画の変更ということも十分考えられるのではないかなと思っています。
- 黒木町長 いろいろ、途中で状況を見ながら、この計画は、ちょっと変更される可能性もあるのでしょうか。
- 教育総務課長 はい、十分ございます。
- 教育総務課長補佐 1つの工事をやり始めたら、なかなか変更はできないとは思いますが、着手前とかであれば、そういう若干見直しや変更というものはあると思います。
- 黒木町長 特に、もし、中学校を統合した方がいいだろうってなる場合は、早く見極めておかないと、無駄な設備投資をしてしまうことにもなりますね。
- 教育総務課長 小学校が終わった後に、中学校を整備することにしておりますので、時間は十分

教育総務課長 あるかと思っております。

黒木町長 中学校は、どちらを残すかということも想定しながらになるのかなと。非常に、高鍋の場合ありがたいのは、県内で面積も1番小さな町ですので、歩いて行けるといふ距離だというのは、ほかの市町村とは違うコンパクトな街としてのメリットがあるのかなと感じております。あとは、どうでしょうか。財政課長、財政的にはどうでしょうか。

財政経営課長 はい、財政的にというか、子供たちの教育はやらなければならない問題だと理解はしております。ですから、お金がないからできないっていうのは、言えるものではないと考えております。

黒木町長 ありがとうございます。まずは、何が何でもやっていくということですね。あの、小中一貫校ではなくて、今の形のまま長寿命化で進めていくということですが、この考えはどうなんですかね。国が長寿命化って言ってるんですよ。

教育総務課長 国の方は、従来の建て替え、改築から長寿命化でやってくださいっていう指針が、令和3年に示されまして、それで高鍋町もその長寿命化でやろうかなという考えで現在進めているところでございます。一方で、今回の3月議会でもある議員さんから、建て替えの方が良いのではないかというようなご質問もいただいているのですが、実際、校舎の中で過ごす分には、長寿命化であっても建て替えであっても変わらない環境にはなるというふうに思ってます。ただ、やっぱりコストが、10億程度変わってきますので、そういった面も含めまして、やっぱり長寿命化の方が現実的なのかなという判断にしたところですよ。

黒木町長 目指す教育環境は一緒だということですね。あと、ほかの自治体では、小中一貫校にするケースが増えてきているように感じますが、これはやはり、児童生徒数が少なくなってきたことが影響しているのでしょうか。

島埜内教育長 例えば、中学校で言えば、生徒数が少なくなると、9教科の先生全員の配置は難しく、臨時免許等で対応する先生が増えてくることになります。それを防ぐために、小中一貫校にして、教員をたくさん配置してもらいましょうという考え方なのですが、高鍋の場合は、児童生徒数は、十分満たしておりますので、今のところ小中一貫校に移行するというようなことも考えなくていいんじゃないだろうかと思っております。

黒木町長 そうなんですね。小泉委員、何かご意見等ございませんか。

小泉委員 新生が入学して卒業するまで学校の工事をしているということになるのですね。長いですね。

黒木町長 そう考えると、確かにかなり長期的な事業になりますね。ところで、今現在、設備的にいろんな不具合があって、子供たちが非常に危険な思いをしているということはないんですよ。

島埜内教育長 先ほど少し言っていましたけど、雨漏りなどはちょっとあるようです。

教育総務課長補佐 まあ、そうですね。あと、体育館等で床材の剥がれとかがあってちょっと怪我したという事案はございました。

黒木町長 以前、激しい雨漏りがするというので、そんな環境で子供たちに勉強を教えるのかというお叱りを受けたことがありましたが。今はそういう状況はないということではないんですよ。

教育総務課長補佐 はい。ございません。

島 埜 内 教 育 長 先ほど体育館の話がありましたが、ずっと暗いと言われておりました照明も今回LEDに変更しましたので、明るくなっております。

黒 木 町 長 現在は、極端な苦情はないということによろしいのですか。

教 育 総 務 課 長 まあ、そうですね。ただ、夏になると、ちょっとクーラーが止まったりして、苦情がきます。

黒 木 町 長 トイレの洋式化率も、県内5番目に高い数値ということで、早め早めに取り組んでもらっていてありがたいです。それでは、以上で学校施設についての話し合いは、終了させていただきます。

それでは、次の協議事項である「不登校児童生徒の現状と課題、今後の支援方針について」の説明をお願いします。

指 導 主 事 <資料に基づき説明>

黒 木 町 長 ありがとうございます。只今、事務局の方から説明がありましたが、この件に関して、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

ちょっと先に私からよろしいでしょうか。不登校児童生徒数は、毎年増えていっていると思っていいいのでしょうか？

指 導 主 事 はい。毎年増えていっております。それから、不登校の定義にありましてとおり、病気の子供は含まないのですが、結局、少し頭が痛い、頭が痛いということで病気欠席になっている子供とかは、含まれない場合もありますので、潜在的にはもっと多いのかなと思っているところでございますが、このことは高鍋だけでなく、全国的にも同じような傾向にあるのかなと感じております。

黒 木 町 長 国も文科省も、大きな課題として捉えているということですね。四角目委員何かご意見ございませんでしょうか。

四 角 目 委 員 やはり、コロナ以降、不登校がかなり増えたという話をよく聞くようになりました。コロナが流行っていた時期というのは、少し具合が悪かったら、もう登校しない、させないということが当たり前のように行われておりましたので、子供たちも、そういう判断、学校に行かなければならないという意識がだんだん緩んできているのかなという話を聞いております。

黒 木 町 長 コロナで、学校へ登校することの考え方が変わったということですね。

四 角 目 委 員 少し具合が悪かったら来なくていいですよ、欠席扱いにもなりませんよということがかなり影響しているのではないかと感じております。

黒 木 町 長 確かにそういったことがあるかもしれませんね。黒木委員、どうでしょうか。

黒 木 委 員 高鍋町の場合、なでしこルームやまちなかコラボなどでも対応しておられるということで素晴らしいことだと思うのですが、こういった施設にも行けない、完全に学校にも行けないという子供は何人くらいいるのでしょうか。

指 導 主 事 正確な数はちょっと今把握していないのですが、確かにそういう子供もいまして、繋がり方としては、スクール・ソーシャル・ワーカーの野中さんが、家庭訪問に行ったり、本人に会えない場合は電話連絡を行ったりしております。学校の方でも、週に1回、家庭訪問などの対応を行っております。完全に関係が途切れているといった子供はおりません。

島 埜 内 教 育 長 西都児湯の教育長会などでも話題になることがあるのですが、他の市町村では、教育支援センターに来る児童生徒が少なくて、いわゆる今で言われたような完全引きこもり状態となってしまう子供の数が多いそうです。高鍋は毎日30人以

- 島 埜 内 教 育 長 上来てますと言うと、みんなびっくりされます。西都市などは、4、5人しか来ないというような状況だそうです。高鍋のいいところは、そういった引きこもりとなっている子供が他の市町村に比べて少ないところかなと思っています。
- 黒 木 町 長 なでしこルームとまちなかコラボがしっかり機能しているということですね。岩崎委員いかがでしょうか。
- 岩 崎 委 員 先日なでしこルームの様子を拝見させていただいたのですが、小学生も中学生もとても集中して学習に取り組んでいました。想像していたよりも活気があって、子供たちがすごく過ごしやすそうだなという印象を受けました。保護者としては、やはり家に引きこもっているよりも、学校じゃなくてもなでしこルームやまちなかコラボに行ってくれることがまず嬉しいと思いますし、そこにまた学習ができる環境が整っていればなおさらだと思います。保護者以外にも寄り添える大人がいてくれるという子供の居場所づくりに関する高鍋町の取り組みは、すごくありがたいなと思います。やはり、スクール・ソーシャル・ワーカーの野中さんの存在がすごく大きいのだろかなと思います。
- 黒 木 町 長 学校へ行っていたときよりも、なでしこルームに行ってからの方が勉強も頑張っているというようなこともあるようですね。とても素晴らしいことですね。なでしこルームの子供たちも高校へ進学しているんですね。
- 島 埜 内 教 育 長 はい。全員進学しております。
- 黒 木 町 長 あと、まちなかコラボの方も進学する子供が出てきてるようですね。岩崎委員が申されるとおり、子供が学校に行かず、ずっと家にいると保護者の方も仕事もできなくて本当に大変ではないかなと思います。小泉委員いかがでしょうか。
- 小 泉 委 員 先ほど紹介のあったアンケートの要因や数などは子供が記入したのですか。
- 指 導 主 事 いえ。これは教員が書いたものになります。
- 小 泉 委 員 それでは、この回答が当たっているかどうかはわからないということですね。
- 指 導 主 事 要因については、先生たちが、この子供の不登校の原因はこれだという対応したものを選んでおまして、数については、出席状況など先生方しか把握ができない部分になります。そういった調査となっております。
- 小 泉 委 員 これらの調査で用いられている言葉は、文部科学省の言葉になるのですか。困難的課題とか…
- 指 導 主 事 はい。国が定めた生徒指導提要対応というのがありまして、それに基づいた文言となっております。
- 小 泉 委 員 言い方が難しいですね。
- 指 導 主 事 簡単に説明いたしますと、みんなが不登校とかならないような楽しい学校生活にしましょうという全員に対応するものと、困り感がちょっとみられる子供にすぐ対応する部分と、今不登校になってる重度の子供たちにしっかり対応しましょうという部分の3層構造というように捉えるとものすごくシンプルに考えられるかなと思っています。
- 不登校児童生徒の支援は、もう学校に登校するという結果のみを目標にするのではなくて、社会的に自立する方向という形なので、やはりどこか関係機関と繋がって、先ほど教育長も申しておりましたが、引きこもりを作らない、どこに居場所があって繋がって、将来社会的に自分が人と関わって生きていけるようにすることが大事なのかなと思っています。なでしこルームやまちなかコラボというのは、すご

- 指 導 主 事 　く貴重な場だなというふうに考えております。
- 島 埜 内 教 育 長 　「生徒指導提要」というものがありまして、これは、10年に1回くらい改正されるのですが、前回の生徒指導提要に比べると2倍ぐらいのボリュームになっておりまして、特に不登校関係がものすごく増えております。
- 黒 木 町 長 　今話に出ておりました子供の居場所づくりというのが最近多いですね。居場所というからには、家とは別の集う場所ということですよ。
- 指 導 主 事 　よく県とかの会議でも、不登校の調査があったときに、どこかの関係機関と繋がっていますかという質問に対して、どことも繋がっていないと答える子供が多くて、そういう子たちはずっと家にいて、他人との関わりも持てないので、やはりそういうところが心配だという話がよく出ます。そういったことで、学校に戻すというよりも、どこかと繋ぐというのが最近の不登校対応の傾向となっています。ただ一方で、なでしこルームに入った子供でも、本当にうまく順応していけば、学校に戻る子供もおりますので、それぞれの子供の状況に合った対応が必要かなと感じております。
- 四 角 目 委 員 　この間なでしこルームの指導員の方が、なでしこルームに通う子供たちが増えて、いろんな部屋を借りて対応しているそうなのですが、急にその部屋で会議なんかの予定が入ったら、その場所を出ていかないといけなくて、他に使える場所を探すのに大変だと言われておりました。だから、やはりそういう場所の確保を考えた方がいいのかなと思ったところでした。
- 黒 木 町 長 　部屋を使っているかどうか聞く必要があるんですか。
- 島 埜 内 教 育 長 　月に1回くらい使えない時があります。
- 黒 木 町 長 　またこれは、調整する必要がありますね。高鍋のなでしこルームは、まあまあ人気があると言ったらあれですけど、子供たちがたくさん来るというのは、ほかの市町とどこが違うのでしょうか。指導者がいいんでしょうか。
- 指 導 主 事 　はい。おっしゃるとおり先生方が子供たち1人1人のペースに応じてやってくださることと、やはりスクール・ソーシャル・ワーカーの野中さんのような繋ぎ役が存在するということはすごく大きいのかなと感じております。それから、徒歩でもすぐに通えるという立地条件にも恵まれていると思います。他の大きな市などになると、保護者の送迎が必要となるのですが、仕事をされているとなかなか難しいようです。高鍋はコンパクトにまとまっているので、東西校区両方からの徒歩で通えるという点は大きなメリットであると感じております。
- 島 埜 内 教 育 長 　高鍋の場合は、先生方がいろんな相談にも対応してくれているなど頑張ってくれております。昼ご飯食べたらず毎日みんなで散歩なんかもしております。それから体育の時間や遠足もあります。いろいろ子供たちのためによく考えてくださっています。学びの学校のような感じです。
- 黒 木 町 長 　なるほど。そういういろんな努力と、スクール・ソーシャル・ワーカー野中さんの親身のお手伝いがあるってこそということですね。いち早く高鍋は、スクール・ソーシャル・ワーカー配置していてよかったですね。そういう部分の支援が大事な時代になってきたということですね。不登校の問題も家庭に問題があったりすることが多いと思うのですが、学校の先生方が家庭の中まで入り込むというのはちょっと難しいですね。だからこそ、スクール・ソーシャル・ワーカーが、家庭まで出向いて、家庭の課題を学校と繋ぐということが非常に重要だということですね。

教育対策監 検査から行いたいと考えております。

それから2つ目の、協働的な学習・探求的な学習の部分の調査結果が低いという点についてですが、これは、子供たちがアンケート書く際に、ちょっと捉え方としてズレがあったのかなと思っております。実は、この調査では、「総合的な学習の時間では…」という言葉が前に付いております。総合的な学習の時間というのは探求学習ですので、子供たちは、当然、地域の方々も関わりながらいろんな総合的な学習をしているのですが、いわゆる課題の持たせ方、なぜそういうことをやるのか理解させるという部分がやはり不足してるのかなと感じております。子供たちはたくさんやっているのですが、それが探求学習だというイメージがちょっとなかったのではないかと考えております。今後は、総合的な学習をする意図の部分を生方にもしっかり伝えていく必要があると思っております。

島埜内教育長 今回の説明の補足ですが、体育大会や運動会、それから文化祭とか、非常に子供達を楽しみにしている行事だと思うんですが、それが新型コロナ感染防止のために縮小されてきているという点も、学校が楽しくないと感じる子供が増えたことに影響しているのではないかなと感じております。

黒木町長 なんだか先ほどの「なでしこルーム」の方が楽しそうですね…。それから、探求的な学習と家庭学習の時間の短さという点は何か関連があるのでしょうか。

教育対策監 関連はないとは思いますが、学力向上のためには、やはり、学校の勉強プラス家庭での復習が大切であります。学校で身につけたものをしっかり家庭に持って帰って復習するという点が、全国に比べると、かなり低くなっています。つまり、家での勉強時間がかかなり少ないということになります。そういうこともございまして、全国学力学習状況調査の結果をホームページ等で公表するとともに、各校のPTA会長さんとの情報交換会でも説明させていただいております。やはり、家庭での学習が必要だと、それに、タブレットの活用、合わせて、AI教材のキュビナも導入しておりますので、家庭でも一緒に活用してくださいということで、推進していこうと考えているところでございます。

黒木町長 探求的な学習などがやはり大事だということでもいいんですね。

島埜内教育長 はい。文部科学省からもそのように示されております。今からの学習の形態を考えてみますと、今までの一斉指導からどんどん個別的な指導に変わってきておまして、タブレットを使って授業を受ける生徒、それから教科書を使って授業を受ける生徒、生徒から教わる生徒というように、いろんな形に細分化されてきているので、そのような状況の中では、やはり探求的な学習が基礎になると言われております。

教育対策監 すみません。補足ですが、特にこのアンケート調査を行った時期は、コロナ禍でありましたので、協働的な学習と申しますか、いわゆる話し合い活動がなかなかできなかったという状況もありましたので、そういう間が空いてしまったので、そういう話し合いということがなかなか難しかったのかなと感じております。今後、この点につきましても、先生たちの授業の工夫も変わってくるのではないかなと思います。

黒木町長 わかりました。この調査結果から判断すると、高鍋の子供たちの能力は、どうなのでしょう。

教育対策監 学年によって、高い学年、ちょっと頑張らないといけない学年などバラツキがございまして、全体的には、県平均レベルでございまして。

黒木町長 　少し本題から外れるのですが、先日、新富町長と話をすることがあって、その時に、小中一貫校だから学力が高いといったようなことを言われていたのですが、実際どうなのでしょう。

教育対策監 　失礼ですけれども、今の学年が高いたけではないかと思えます。

黒木町長 　そうなんです。わかりました。

岩崎委員 　先ほどの、家庭学習の工夫改善が求められるということの関連ですが、息子が東中にいるのですが、校時程を今年度いろいろ変えられて、子供が早く下校するようになりました。先生方の働き方改革にも繋げることや部活動の時間を確保するなど様々な狙いがあったんだと思いますが、早く帰って、今年度、受験生だったっていうこともあると思うのですが、帰ってきて、比較的早めに勉強に取り組む時間が持てたなと思えました。そして、早めに勉強に取り組むことによって、早く寝れて睡眠時間が確保できるようになって、翌日1時間目の授業からしっかり集中して聴けたのではないかなと思っています。最後に、3年生の懇談会の時に、1月の実力テストの結果が年平均よりも全教科上回ったと伺いました。ちょっと詳細までは知らないのですが、そういう部分は、導入していただいたキュビナなどに子供たちが取り組んだということもあると思いますし、もちろん先生方のご指導もあると思いますし、そういう子供たちが勉強に取り組んで頑張った伸びしろだったのではないかなと思ったところでした。

　キュビナも視力に対する影響ですとか一長一短あると思えます。1月に行われた町PTAの研修で、教育研究所の富永先生が保護者に向けても実際にこうやって問題を解くんですよ、間違ったら躓きのあったところに戻らんですよというのを説明してくださって、あっそんな使い方ができるんだって知った保護者もかなり多かったと聞きましたので、もし、次年度もキュビナを継続していただければ年度のはじめ、1学期のうちに、保護者に対しても、家庭ではこういう取り組みができるんですよ、塾に行かなくても自分でこうやって勉強ができるんですよってというのを知る機会があるとまた家庭での声掛けも違うかなと思えました。

黒木町長 　貴重なご意見、ありがとうございます。あと私の方からいいのでしょうか。放課後児童クラブについてなのですが、西小学校にもう1教室分あればという要望があったのですが、余裕教室はもうないんですよ。

教育総務課長 　現在、児童クラブが使用している教室の2階部分にパソコン教室があるんですけども、そちらを活用してもらおうということで今準備を進めているところです。

黒木町長 　そうですか。わかりました。今は、子供は放課後になったら遊びに行くのではなくて、児童クラブに行くというのが普通なのですね。昔は、学校が終わるのが楽しみで遊びに行っておりましたけども、今はそうではないのですね。放課後の居場所をちゃんと作るのが大事なのですね。保護者の方は、子供が児童クラブにちゃんと行っていないと心配になるのでしょうかね。

島埜内教育長 　蚊口地区の方にも空き家を活用して、新しく児童クラブができるという話を聞いております。

黒木町長 　そうなんです。ほかに何かご意見ないですか。それでは、これで協議の方を終わらせていただきます。ありがとうございます。

教育総務課長 　黒木町長ありがとうございます。次にその他となっておりますが、事務局の方としては特に用意しておりませんが、委員の皆様の方から何かありましたらお願い

教育総務課長 いたします。ないようでしたらこれで終わらせていただきたいと思います。

以上を持ちまして、令和5年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。
ありがとうございました。